

OECD 生徒の学習到達度調査2018年調査(PISA2018)のポイント

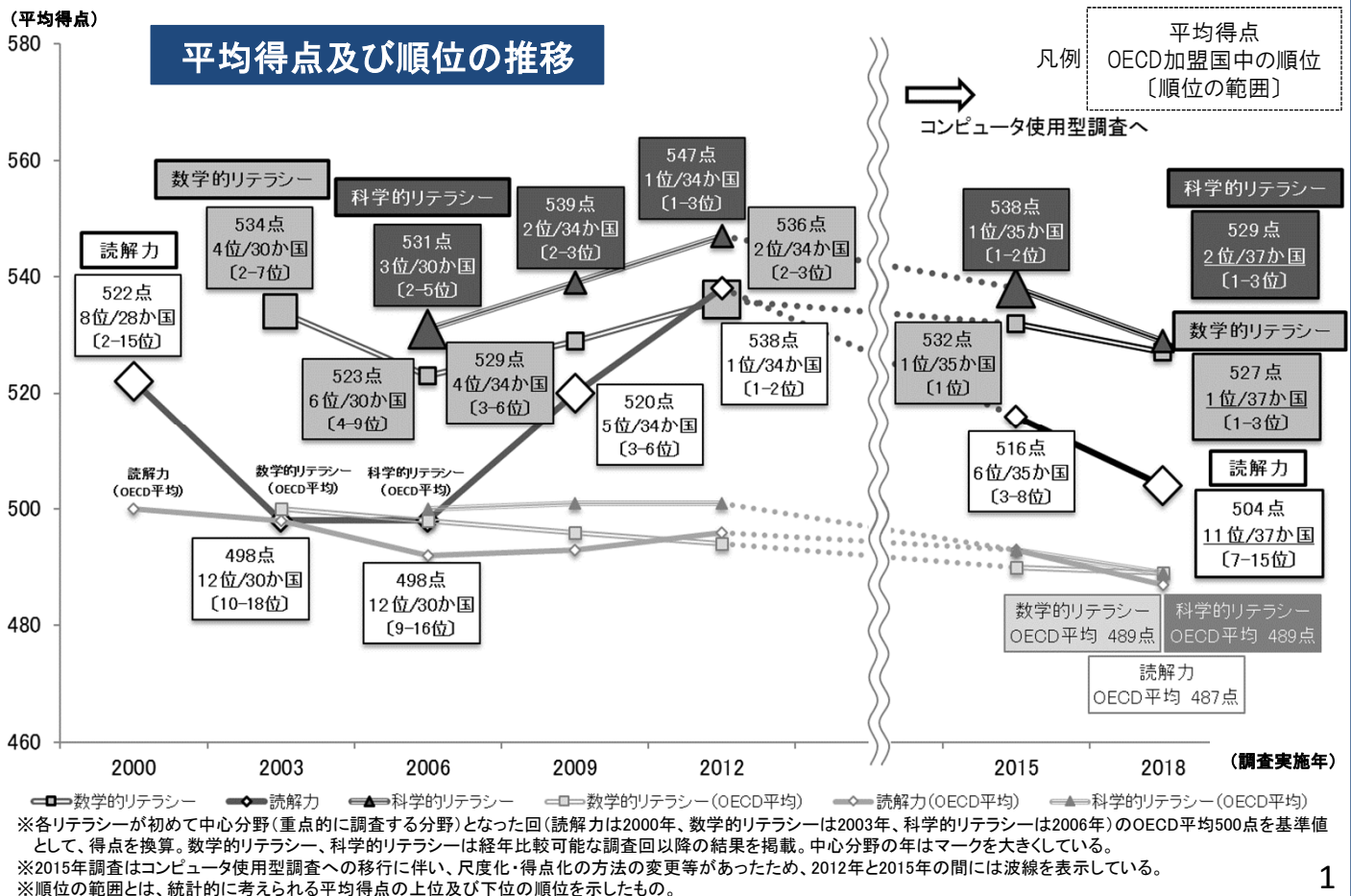
結果概要

<PISA2018について>

OECD(経済協力開発機構)の生徒の学習到達度調査(PISA)は、義務教育修了段階の15歳児を対象に、2000年から3年ごとに、読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野で実施(2018年調査は読解力が中心分野)。平均得点は経年比較可能な設計。前回2015年調査からコンピュータ使用型調査に移行。日本は、高校1年相当学年が対象で、2018年調査は、同年6~8月に実施。


<日本の結果>

- ◆ 数学的リテラシー及び科学的リテラシーは、引き続き世界トップレベル。調査開始以降の長期トレンドとしても、安定的に世界トップレベルを維持しているとOECDが分析。
 - ◆ 読解力は、OECD平均より高得点のグループに位置するが、前回より平均得点・順位が統計的に有意に低下。長期トレンドとしては、統計的に有意な変化が見られない「平坦」タイプとOECDが分析。
- 三分野**
- ◆ 読解力の問題で、日本の生徒の正答率が比較的低かった問題には、テキストから情報を探し出す問題や、テキストの質と信ぴょう性を評価する問題などがあつた。
 - ◆ 読解力の自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明することに、引き続き、課題がある。
 - ◆ 生徒質問調査から、日本の生徒は「読書は、大好きな趣味の一つだ」と答える生徒の割合がOECD平均より高いなど、読書を肯定的にとらえる傾向がある。また、こうした生徒ほど読解力の得点が高い傾向にある。
- 読解力**
- ◆ 社会経済文化的背景の水準が低い生徒群ほど、習熟度レベルの低い生徒の割合が多い傾向は、他のOECD加盟国と同様に見られた。
 - ◆ 生徒のICTの活用状況については、日本は、学校の授業での利用時間が短い。また、学校外では多様な用途で利用しているものの、チャットやゲームに偏っている傾向がある。
- 質問調査**




1. 2018年調査の結果

● OECD加盟国(37か国)における比較

 は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	エストニア	523	日本	527	エストニア	530
2	カナダ	520	韓国	526	日本	529
3	フィンランド	520	エストニア	523	フィンランド	522
4	アイルランド	518	オランダ	519	韓国	519
5	韓国	514	ポーランド	516	カナダ	518
6	ポーランド	512	スイス	515	ポーランド	511
7	スウェーデン	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
8	ニュージーランド	506	デンマーク	509	スロベニア	507
9	アメリカ	505	スロベニア	509	イギリス	505
10	イギリス	504	ベルギー	508	オランダ	503
11	日本	504	フィンランド	507	ドイツ	503
12	オーストラリア	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
13	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
14	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
15	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
16	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
17	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
18	フランス	493	オーストリア	499	スイス	495
19	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
20	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
	OECD平均	487	OECD平均	489	OECD平均	489
	信頼区間※(日本): 499-509		信頼区間(日本): 522-532		信頼区間(日本): 524-534	

● 全参加国・地域(79か国・地域)における比較

 は日本の平均得点と統計的な有意差がない国

	読解力	平均得点	数学的リテラシー	平均得点	科学的リテラシー	平均得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555	北京・上海・江蘇・浙江	591	北京・上海・江蘇・浙江	590
2	シンガポール	549	シンガポール	569	シンガポール	551
3	マカオ	525	マカオ	558	マカオ	544
4	香港	524	香港	551	エストニア	530
5	エストニア	523	台湾	531	日本	529
6	カナダ	520	日本	527	フィンランド	522
7	フィンランド	520	韓国	526	韓国	519
8	アイルランド	518	エストニア	523	カナダ	518
9	韓国	514	オランダ	519	香港	517
10	ポーランド	512	ポーランド	516	台湾	516
11	スウェーデン	506	スイス	515	ポーランド	511
12	ニュージーランド	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
13	アメリカ	505	デンマーク	509	スロベニア	507
14	イギリス	504	スロベニア	509	イギリス	505
15	日本	504	ベルギー	508	オランダ	503
16	オーストラリア	503	フィンランド	507	ドイツ	503
17	台湾	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
18	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
19	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
20	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
	信頼区間※(日本): 499-509		信頼区間(日本): 522-532		信頼区間(日本): 524-534	

※灰色の国・地域は非OECD加盟国・地域を表す。

※信頼区間は調査対象者となる生徒全員(母集団)の平均値が存在すると考えられる得点の幅を表す。PISA調査は標本調査であるため、一定の幅をもって平均値を考える必要がある。

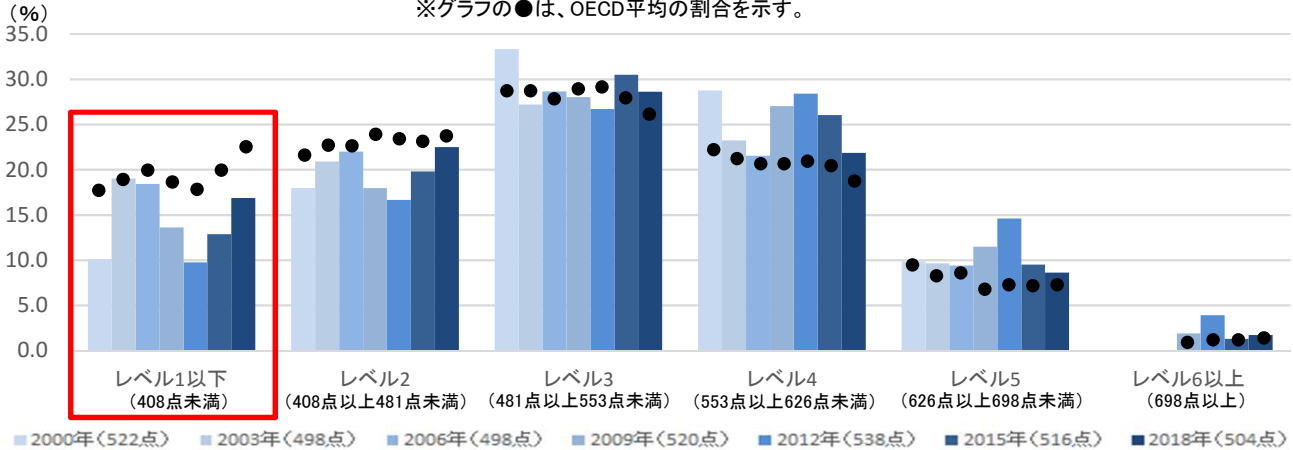
※同得点でも順位が異なるのは、小数点以下の数値の差異による。

2. 読解力について

日本の読解力の結果概要

- ◆ 読解力の平均得点(504点)は、OECD平均より高得点のグループに位置しているが、前回2015年調査(516点)から有意に低下。OECD加盟国中11位(順位の範囲:7-15位)。
- ◆ 習熟度レベル1以下の低得点層が有意に増加しており、OECD平均も同様の傾向。

※習熟度レベルは、高いレベルほど高得点であり、その分野の能力を十分に身に付けていることを示す。
 なお、習熟度レベル6以上は、2009年以降で計測しており、2006年以前はレベル5に含まれている。
 ※グラフの●は、OECD平均の割合を示す。



各国・地域の平均得点の長期トレンド

※()内は日本の読解力の平均得点

- ◆ 平均得点の2000年～2018年の長期トレンドに関するOECDの分析によると、日本の読解力は、平均得点のトレンドに統計的に有意な変化がない国・地域に分類され、そのうち「平坦」タイプに該当。

平均得点のトレンドが	平坦から上昇	上昇	上昇し平坦
	<p>〔マカオ〕</p>	<p>エストニア</p>	<p>ドイツ ポーランド</p>
統計的に有意な変化がない	<p>アイルランド</p>	<p>日本 フランス カナダ アメリカ イタリア イギリス</p>	<p>〔香港〕〔台湾〕</p> <p>OECD平均</p>
	平均得点のトレンドが下降している	<p>韓国 オランダ</p>	<p>オーストラリア ニュージーランド フィンランド</p>

読解力の定義

【読解力の定義】

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

- ※下線部は2018年調査からの定義変更箇所
- コンピュータ使用型に移行し、デジタルテキストを踏まえた設計となったため、「書かれたテキスト」から「テキスト」に変更。(デジタルテキスト:オンライン上の多様な形式を用いたテキスト(Webサイト、投稿文、電子メールなど))
 - 議論の信ぴょう性や著者の視点を検討する能力を把握するため、テキストを「評価する」という用語を追加。

測定する能力

①情報を探し出す

- テキスト中の情報にアクセスし、取り出す
- 関連するテキストを探索し、選び出す

②理解する

- 字句の意味を理解する
- 統合し、推論を創出する

③評価し、熟考する

- 質と信ぴょう性を評価する
- 内容と形式について熟考する
- 矛盾を見つけて対処する

(下線部は、2018年調査から新たに定義に追加された要素)

読解力の調査結果の分析

- 読解力の平均得点の低下に影響を与える要因について分析したところ、生徒側(関心・意欲、自由記述の解答状況、課題文の内容に関する既存知識・経験、コンピュータ画面上での長文読解の慣れ等)、問題側(構成、テーマ、テキストの種類、翻訳の影響等)に関する事項などの様々な要因が複合的に影響している可能性があると考えられる。
- 読解力を測定する3つの能力について、それらの平均得点が比較可能な2000年、2009年及び2018年(読解力が中心分野の回)の調査結果を踏まえると、
 - ・「②理解する」能力については、その平均得点が安定的に高い。
 - ・「①情報を探し出す」能力については、2009年調査結果と比較すると、その平均得点が低下。特に、習熟度レベル5以上の高得点層の割合がOECD平均と同程度まで少なくなっている。
 - ・「③評価し、熟考する」能力については、2009年調査結果と比較すると、平均得点が低下。特に、2018年調査から、「質と信ぴょう性を評価する」「矛盾を見つけて対処する」が定義に追加され、これらを問う問題の正答率が低かった。
- また、各問題の解答状況を分析したところ、自由記述形式の問題において、自分の考えを根拠を示して説明することに、引き続き課題がある。誤答には、自分の考えを他者に伝えるように記述できず、問題文からの語句の引用のみで説明が不十分な解答となるなどの傾向が見られる。

日本の生徒の正答率が低い問題の一例

◆【①情報を探し出す】や【③評価し、熟考する】に関する問題【2018年調査新規問題】

ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文から必要な情報を探し出したり、それぞれの意図を考えながら、主張や情報の質と信ぴょう性を評価した上で、自分がどう対処するかを説明したりする問題。

大問

◆課題文1:企業のWebサイト (商品の安全性を宣伝)

- 問1:字句や内容を理解する
- 問2:記載内容の質と信ぴょう性を評価する(自由記述)

◆課題文2:オンライン雑誌記事 (商品の安全性について別の見解)

- 問3:課題文の内容形式を考える
- 問4:必要な情報がどのWebサイトに記載されているか推測し探し出す
【測定する能力①情報を探し出す】

◆課題文1と2を比較対照

- 問5:両文章の異同を確認する
- 問6:情報の質と信ぴょう性を評価し自分ならどう対処するか、根拠を示して説明する(自由記述)
【測定する能力③評価し、熟考する】

※問4や問6のような問題において、日本の生徒の正答率がOECD平均と比べて低い 4

コンピュータ使用型調査について(2015年、2018年調査)

◆2015年調査より、コンピュータ使用型調査に移行

操作例

- 長文の課題文をスクロールして読む
 - キーボードで解答入力(ローマ字入力)
 - 複数の画面で課題文を提示(Webリンクのクリックやタブの切替えで他画面に移動)
 - マウスによる解答選択、ドラッグ&ドロップ操作で画面上の選択肢を動かして解答
- ※数学的リテラシーのみ、従来の冊子型の問題を用いてコンピュータ画面上で実施しており、次回2021年調査からコンピュータ使用型調査用に、新規問題を開発・導入予定。

調査設計

- 大問ごとに解答を完結する設計のため、解答が終わって次の問に進むと前の大問に戻れない設計。冊子による調査と異なり、最初に調査の全体像を把握したり、最後に全体の解答を修正したりすることができない。

読解力分野のコンピュータ使用型調査の特徴

- オンライン上の多様な形式を用いた課題文(投稿文、電子メール、フォーラムへの参加回答など)を活用(従来の小説、演劇の脚本、伝記、学术论文等に加えて)。
- 2018年調査は、全小問245題のうち約7割の173題がコンピュータ使用型調査用に開発された新規問題。日本の生徒にとって、あまり馴染みのない多様な形式のデジタルテキスト(Webサイト、投稿文、電子メールなど)や文化的背景、概念・語彙などが使用された問題の数が増加したと考えられる。

● 2018年調査(読解力分野)の公開問題【ラパヌイ島】

問1

右の教授のブログを読んで、下の問いの答えを一つクリックしてください。

ブログによると、教授がフィールドワークを始めたのはいつですか。

- 1990年代
- 九か月前
- 一年前
- 五月の始め

3種類の課題文で構成

- 大学教授のブログ
- 書評
- オンライン科学雑誌の記事

問1【測定する能力 ①情報を探し出す】
ある大学教授のブログを画面をスクロールして読んだ上で、教授がフィールドワークを始めた時期を選択して解答する。

タブをクリックし、画面表示する課題文を選ぶ。

問6

右のタブをクリックすると、それぞれの資料を読めることができます。

二つの説に関する原因と結果を正しい位置にドラッグ&ドロップして、下の表を完成させてください。

原因	結果	提唱者
		ジャッド・ダイヤモンド
		カール・リポとデリー・ハント

モアイ像は同じ石切り場で彫られた。

ラパヌイ島にあった木が消滅した。

ナ・ヨウ・ネズミが木の種を食べ、その結果新しい木が育たなかった。

ラパヌイ島の住人は、モアイ像を運ぶために天然資源が必要だった。

移住者はカヌーを使ってネズミをラパヌイ島に連れてきた。

人間は耕作やその他の理由のために木を切って土地を切り開いた。

サイエンス ニュース

ラパヌイ島の森を破壊したのはナンヨウネズミか？
科学レポーター 木村 真

2005年、ジャッド・ダイヤモンド氏の『文明崩壊』が出版されました。この本の中で、彼はラパヌイ島(別名イースター島)に人が定住した様子を描いています。

本書は出版と同時に大きな議論を呼びました。多くの科学者が、ラパヌイ島で起こったことについてのダイヤモンド氏の説に疑問を抱いたのです。科学者たちは、18世紀にヨーロッパ人がその島に初めて上陸した時には巨木が茂っていた点については同意しましたが、消滅した原因についてのジャッド・ダイヤモンド氏の説には同意しなかったのです。

そして、二人の科学者カール・リポ氏とデリー・ハント氏による新しい説が発表されました。彼らはナンヨウネズミが木の種を食べたために、新しい木が育たなかったと考えています。そのネズミはラパヌイ島の最初の移住者である人間が上陸するために使ったカヌーに偶然乗っていたか、または、この島に意図的に連れてこられたのだと、彼らは述べています。

ネズミの数は、47日間で二倍に増えるという研究結果があります。それほど数のネズミが育つには多くのエサが必要です。リポ氏とハント氏はこの説の根拠として、ヤシの実の残骸にネズミがくじけた跡が残っている点を指摘しています。もちろん彼らも、ラパヌイ島の森の破壊に人間が加担したことは認めています。しかし、一連の経緯の元凶は主にナンヨウネズミの方であったというのが、彼らの主張なのです。

問6【測定する能力 ②理解する】
2つの説に関する原因と結果を選択肢から選び、ドラッグ&ドロップ操作によりそれぞれ正しい位置に移動させ、表を完成させる。

読書活動と読解力の関係

◆日本を含むOECD全体の傾向

○本の種類にかかわらず、本を読む頻度は、2009年と比較して減少傾向にある。

・「月に数回」「週に数回」読むと回答した生徒の割合

(例)「新聞」: 日本21.5% (36.0ポイント減)、OECD平均25.4% (37.1ポイント減)

「雑誌」: 日本30.8% (33.8ポイント減)、OECD平均18.5% (40.4ポイント減)

○読書を肯定的にとらえる生徒や本を読む頻度が高い生徒の方が、読解力の得点が高い。中でも、フィクション、ノンフィクション、新聞をよく読む生徒の読解力の得点が高い。

◆日本の特徴

○OECD平均と比較すると、日本は、読書を肯定的にとらえる生徒の割合が多い傾向にある。

・「読書は、大好きな趣味の一つ」: 日本45.2% (3.2ポイント増)、OECD平均33.7% (0.4ポイント増)

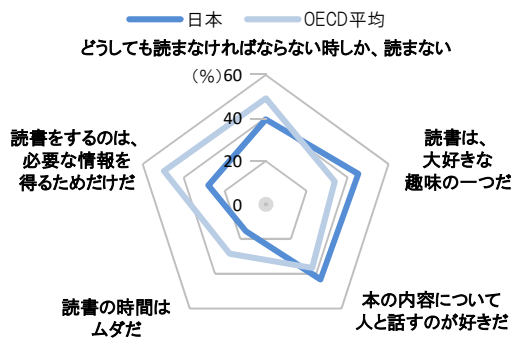
・「どうしても読まなければならない時しか、読まない」: 日本39.3% (8.2ポイント減)、OECD平均49.1% (7.8ポイント増)

○OECD平均と比較すると、コミック(マンガ)やフィクションを読む生徒の割合が多い。新聞、フィクション、ノンフィクション、コミックのいずれも、よく読む生徒の読解力の得点が高い。

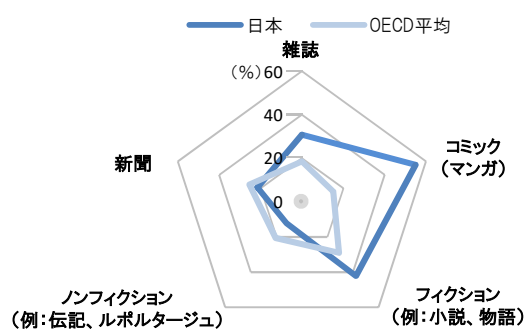
※「読書」には、本、ウェブサイト等多様な読み物を含み、デジタル機器による読書も含む。

※読書や国語の授業に関する生徒への質問調査は、読解力が中心分野の時にしか行われないため、2009年調査の結果と比較。

【読書への関わり】 ※「まったくその通りだ」または「その通りだ」と回答した生徒の割合【複数回答可】



【読む本の種類・頻度】 ※「月に数回」または「週に数回」と回答した生徒の割合【複数回答可】

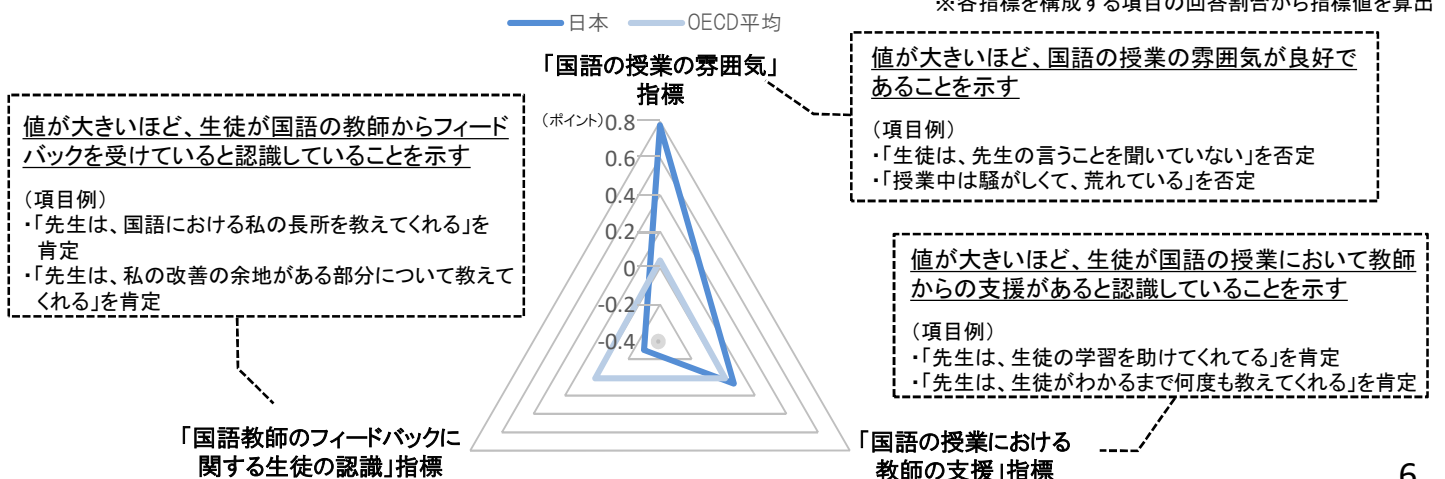


国語の授業

◆国語の授業に関する指標値は、比較的良好。

日本は、「国語の授業の雰囲気」指標、「国語の授業における教師の支援」指標の値がOECD平均を上回っており、国語の授業の雰囲気が比較的良好である。一方、「国語教師のフィードバックに関する生徒の認識」は、OECD平均より低い。これは、PISA調査が、高校1年の6~8月という、入学して間もない時期に行われていることが影響した可能性もあると考えられる。

※各指標を構成する項目の回答割合から指標値を算出



3. 数学的リテラシー及び科学的リテラシーについて

数学的リテラシー

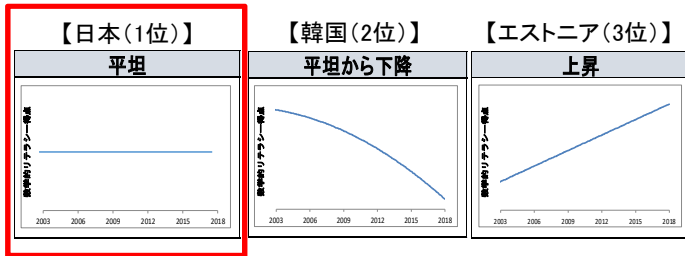
◆2018年調査も、世界トップレベルに位置

日本の平均得点は527点。
加盟国中 1位（順位の範囲:1~3位）。

◆長期トレンドでも、世界トップレベルを維持

平均得点の2003年~2018年の長期トレンドは、統計的に有意な得点の上昇・下降がない類型のうち「平坦」タイプであり、世界トップレベルを維持。

● 2018年調査上位3か国(OECD加盟国)の状況



科学的リテラシー

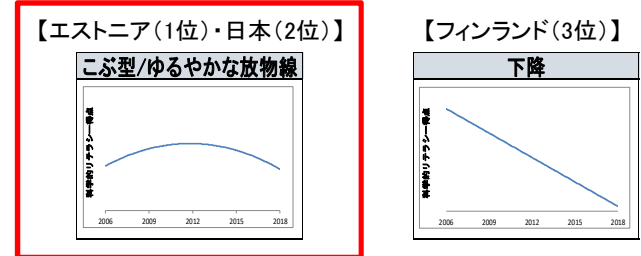
◆2018年調査も、世界トップレベルに位置

日本の平均得点は529点。
加盟国中 2位（順位の範囲:1~3位）。
前回調査と比較すると、平均得点は有意に低下しているが、上位国も同様の傾向。

◆長期トレンドでも、世界トップレベルを維持

平均得点の2006年~2018年の長期トレンドは、統計的に有意な得点の上昇・下降がない類型のうち「こぶ型」タイプであり、世界トップレベルを維持。

● 2018年調査上位3か国(OECD加盟国)の状況

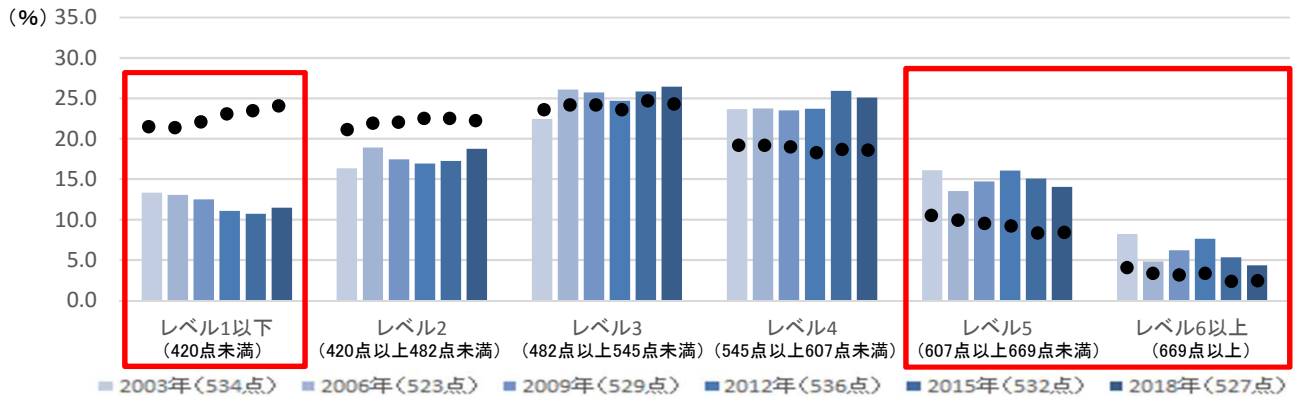


日本の習熟度レベル別の推移

※習熟度レベルは、高いレベルほど高得点であり、その分野の能力を十分に身に付けていることを示す。
※グラフの●は、OECD平均の割合を示す。
※各リテラシーが初めて中心分野となった調査年から比較。

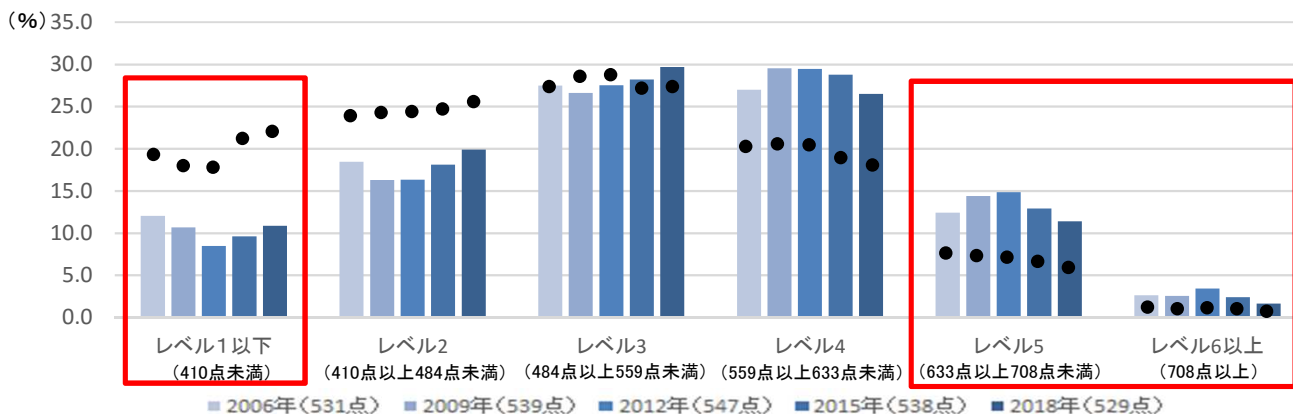
数学的リテラシー

レベル1以下の低得点層が少なく、レベル5以上の高得点層が多い



科学的リテラシー

レベル1以下の低得点層が少なく、レベル5以上の高得点層が多い



4. 平均得点と社会経済文化的背景(ESCS)

◆社会経済文化的背景(ESCS; Economic, Social and Cultural Status)

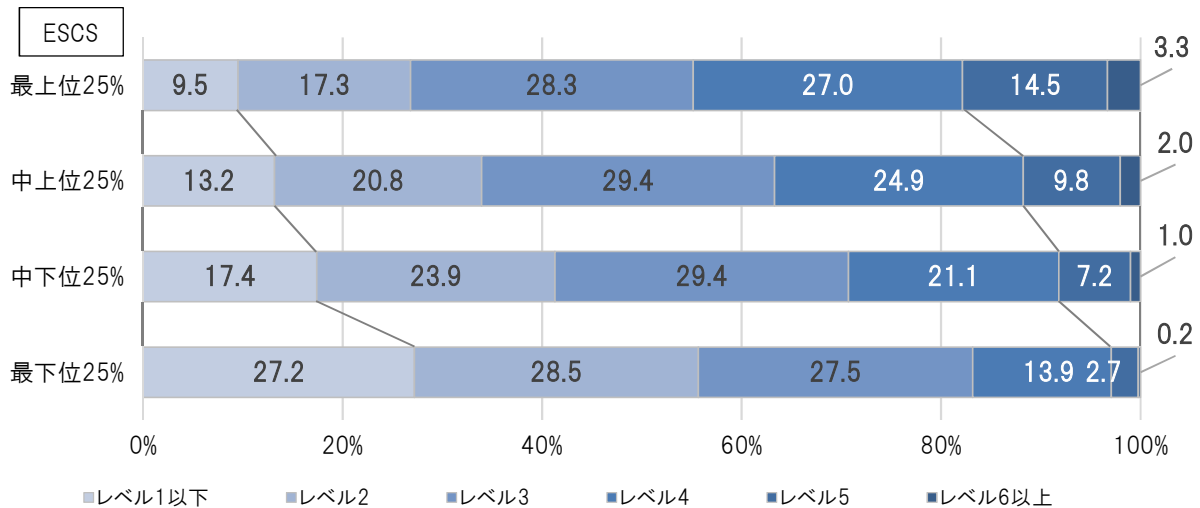
保護者の学歴や家庭の所有物に関する質問項目からESCS指標を作成。この値が大きいほど、社会経済文化的水準が高いとみなしている。PISA調査では、ESCSの値の高低により生徒を4群に分け、3分野の得点との関係などを分析。

◆ESCSと習熟度レベル別の割合との関係

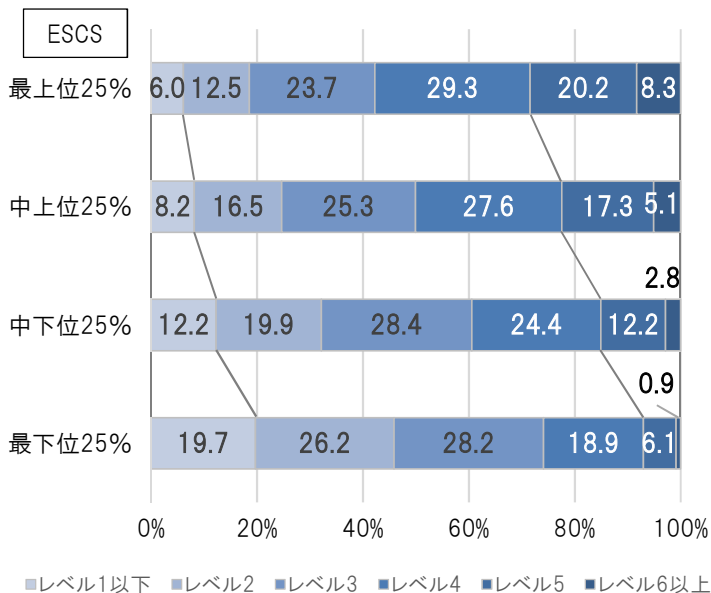
- ・日本、OECD平均ともに、ESCSが高い水準ほど習熟度レベルが高い生徒の割合が多く、ESCSが低い水準ほど習熟度レベルが低い生徒の割合が多い。
- ・日本は、OECD加盟国内で、社会経済文化的水準の生徒間の差が最も小さく、社会経済文化的水準が生徒の得点に影響を及ぼす度合いが低い国の1つであり、調査開始から引き続き、2018年調査においても同様の傾向が見られる。

● 日本のESCSの水準別の3分野の習熟度レベルの割合(2018年)

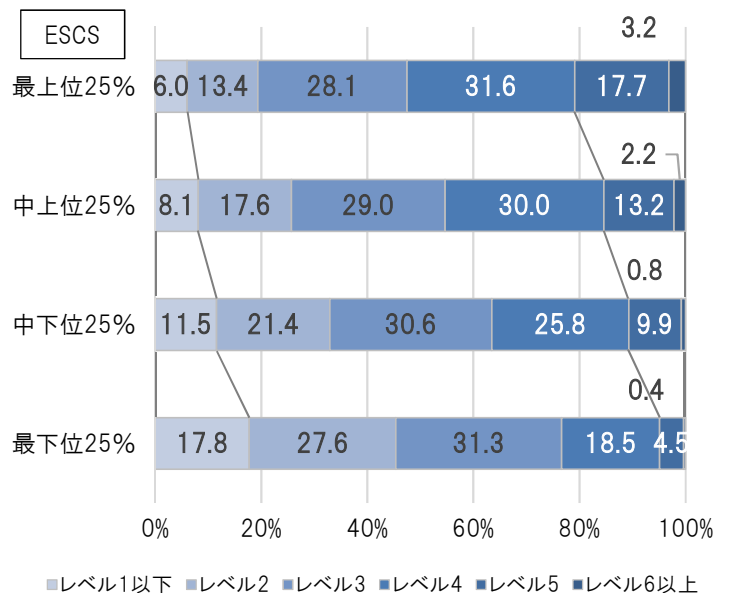
読解力



数学的リテラシー



科学的リテラシー



5. ICT活用調査

ICT活用調査

生徒に、携帯電話、デスクトップ/タブレット型コンピュータ、スマートフォン、ゲーム機など、様々なデジタル機器の利用状況について尋ねた調査。

学校外のインターネットの利用について

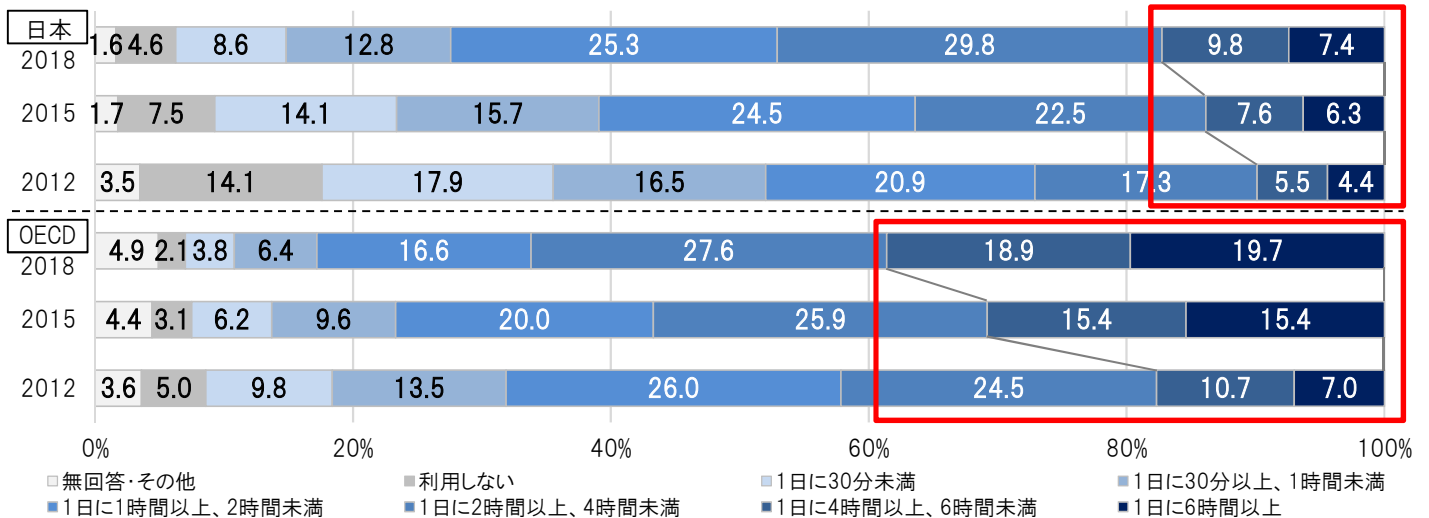
◆利用時間の推移

- ・日本、OECD平均ともに、平日、学校外でインターネットを4時間以上利用する生徒が増えている。
- ・なお、4時間以上利用する生徒の割合を比較すると、日本は、OECD平均より少ない。

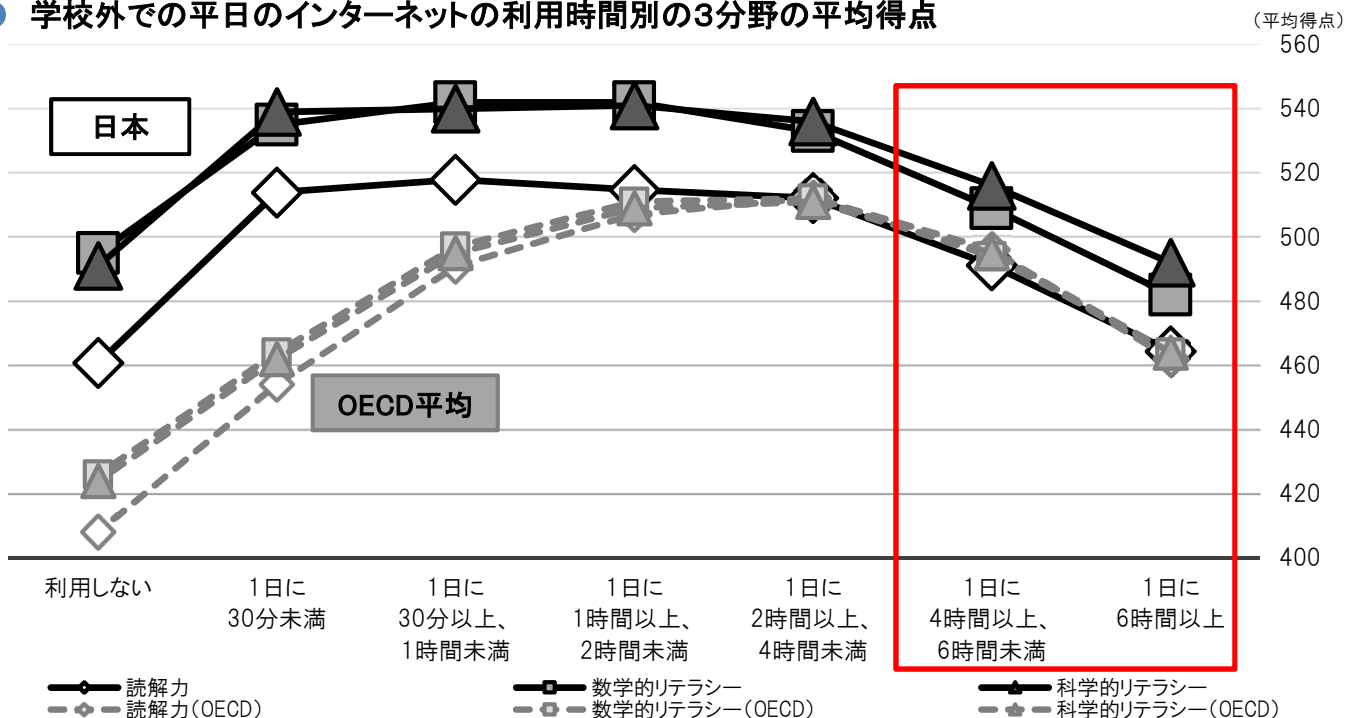
◆利用時間と3分野の平均得点の関係

- ・日本、OECD平均ともに、学校外でのインターネットの利用時間が4時間以上になると、3分野ともに平均得点が低下。
- ・一方、4時間未満の利用について見ると、日本は30分以上4時間未満利用する生徒の3分野の平均得点はほとんど差がないが、OECD平均は利用する時間が長いほど平均得点は高くなる傾向がある。

● 学校外での平日のインターネットの利用時間(経年変化)



● 学校外での平日のインターネットの利用時間別の3分野の平均得点



学校・学校外でのデジタル機器の利用状況

◆日本は学校の授業(国語、数学、理科)におけるデジタル機器の利用時間が短く、OECD加盟国中最下位。

「利用しない」と答えた生徒の割合は約80%に及び、OECD加盟国中最も多い。

◆日本は、他のOECD加盟国と同様、学校外で多様な用途にデジタル機器を利用している。

○他国と比較して、ネット上でのチャットやゲーム(1人用ゲーム・多人数オンラインゲーム)を利用する頻度の高い生徒の割合が高く、かつその増加の程度が著しい。

・「毎日」「ほぼ毎日」利用すると回答した生徒の割合の増加の程度(2012年調査との比較)

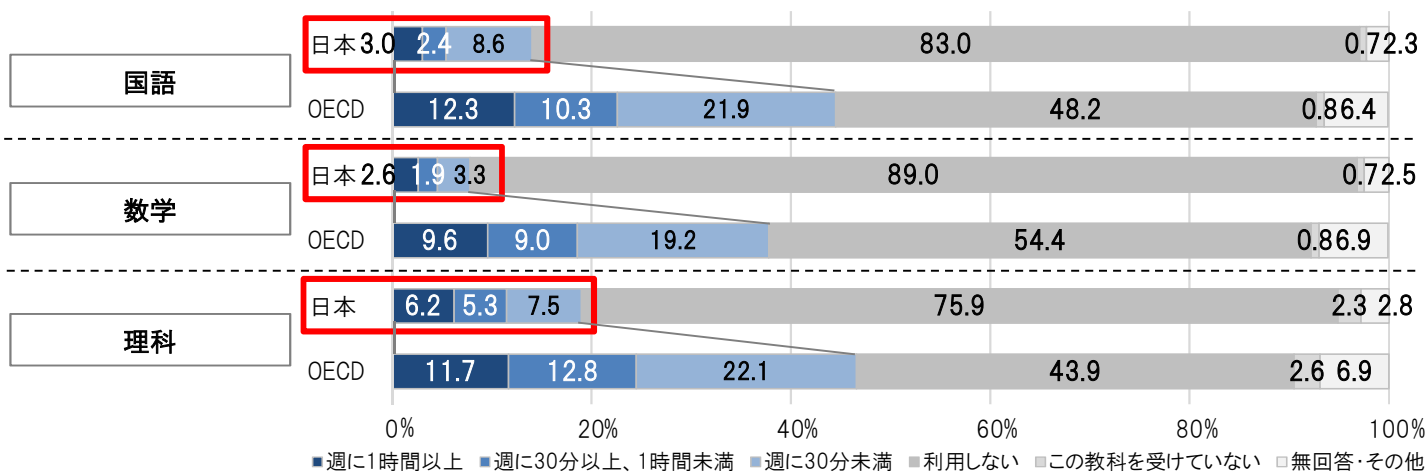
・「ネット上でチャットをする」: 日本60.5ポイント増、OECD平均15.4ポイント増

・「1人用ゲームで遊ぶ」: 日本21.3ポイント増、OECD平均7.1ポイント増

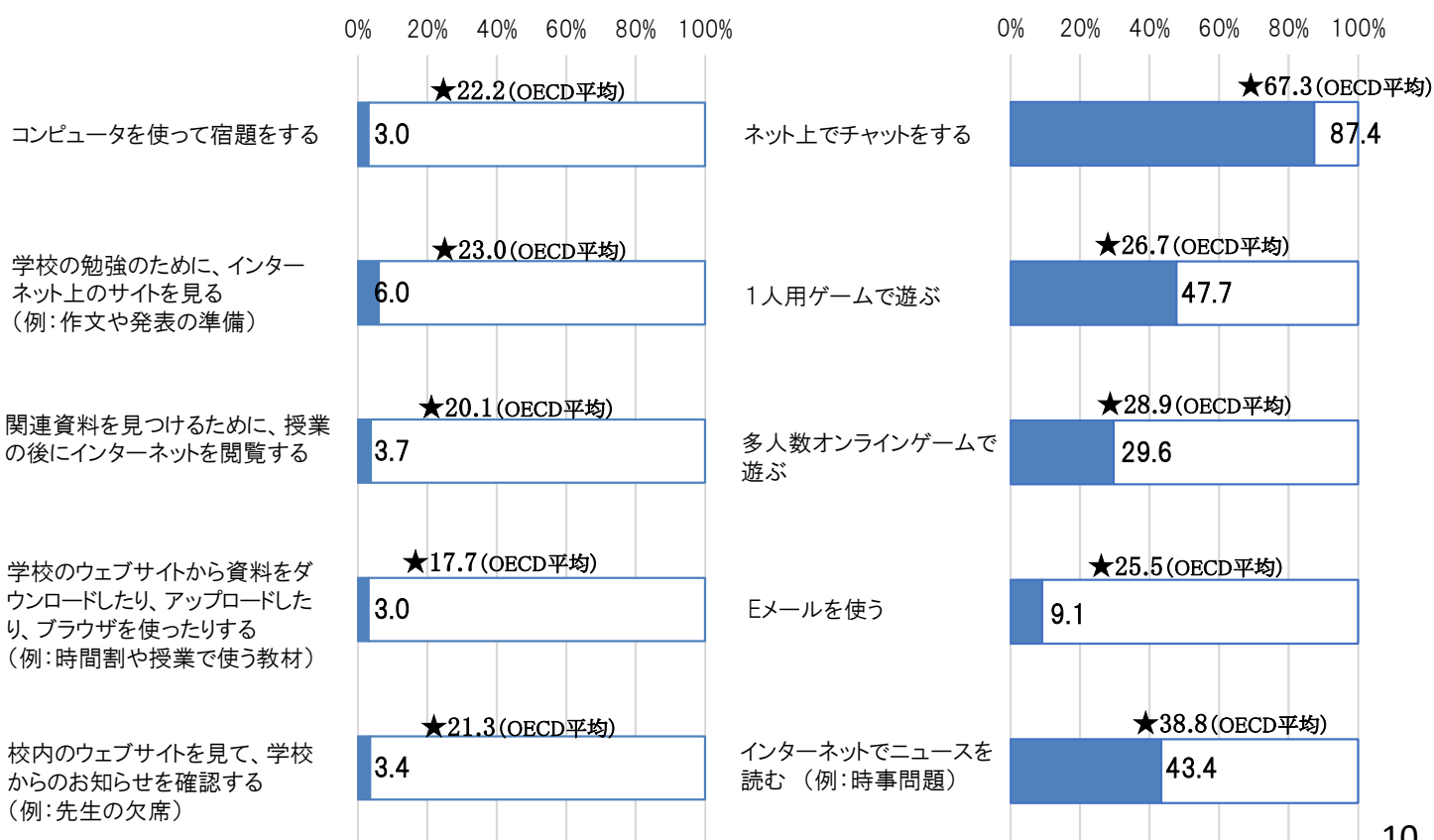
・「多人数オンラインゲームで遊ぶ」: 日本19.4ポイント増、OECD平均7.9ポイント増

○コンピュータを使って宿題をする頻度がOECD加盟国中最下位。

● 1週間のうち、教室の授業でデジタル機器を利用する時間



● 学校外での平日のデジタル機器の利用状況 (青色帯は日本の、★はOECD平均の「毎日」「ほぼ毎日」の合計)



PISA調査結果を踏まえた文部科学省の施策

1. PISA調査結果における各課題に対応した新学習指導要領の実施

文部科学省において、PISA調査結果における各課題に対応した新学習指導要領を着実に実施するとともに、各種施策を推進し、教育委員会・学校・教職員の取組を支援。

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の実現

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善により、児童生徒に学習する意義を実感させたり、情報を精査して考えを形成させたり、問題を見いだして解決策を考えさせたりすることを重視した学習を充実できるように、好事例の蓄積や情報提供などによる支援を実施。

(2) 読解力等の言語能力の確実な育成

① 小中高等学校を通じた国語科における指導の充実

・文章を正確に理解するために必要な語彙、情報の扱い方の確実な定着(辞書や事典の活用等)。
・「読むこと」の指導における⑦文章の構成や論理の展開、表現の仕方を捉え内容を解釈すること、④文章と図表の関係を踏まえて内容を理解すること、⑨文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをもち表現することの重視。
・多様な文章を読んで考えたことを話し合ったり、文章にまとめたりするなどの言語活動の重視。

② 言語能力の育成に向けたカリキュラム・マネジメントの充実

・グラフや図表を読む、実用的な文章(新聞や広報誌等)に触れる等の機会の充実や各教科等の学習を支える語彙の確実な習得(辞書や事典の活用等)のための各教科等の特質に応じた言語活動等の充実。
・総合的な学習(探究)の時間や理数探究等における論文、レポート等を重視した言語活動の充実。
・朝の読書活動等による読書習慣の定着や学校図書館の整備・活用等の言語環境の整備。

(3) 情報活用能力の確実な育成

・小学校段階からのプログラミング教育の実施、学校での学習活動におけるコンピュータ活用の推進。
・コンピュータ等の情報手段を適切に用いた情報取得、情報の整理・比較、情報の発信・伝達、データの保存・共有等を行う力の育成、及びそれらを行う上で必要となる情報手段の基本的な操作の習得の重視。
・家庭・地域と連携したスマートフォン等の適切な利用(長時間、SNS等)に関する情報モラル教育の推進。

(4) 理数教育の充実

・数学教育における、知識・技能の多様な場面での活用機会、統計的に考察し問題解決を図る活動の充実。
・理科教育における、日常生活や社会との関連を重視する活動、実験・観察など科学的に探究する活動の充実。

(5) 全国学力・学習状況調査も活用した指導の充実

・全国学力・学習状況調査の結果により児童生徒の学習状況を把握した上で、知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て、実践して評価・改善する力の育成する指導の充実。

2. 学校のICT環境整備の加速化に向けた取組の推進

(1) 学校のICT環境整備の加速化に向けた取組の推進

一人一台の学習者用コンピュータ、学校内全教室の高速かつ大容量の通信ネットワークの整備を推進。

(2) 「新時代の学びを支える先端技術活用推進方策」の具体化・実施

学校における効果的な先端技術の活用や新時代の学びに必要な学校ICT環境整備に関する実証等を推進。

3. 全児童生徒の教育機会の確保によるセーフティネットの構築

(1) 社会経済文化的背景による格差の縮小に向けた質の高い教育の機会の提供

家庭の経済事情に左右されることなく、誰もが希望する質の高い教育を受けられるよう、幼児期から高等教育段階までの切れ目のない形での教育の無償化・負担軽減や、教育の質の向上のための施策を着実に実施。

(2) 学校・家庭・地域が連携した取組の充実

地域全体で未来を担う子供たちの成長を支えるため、「コミュニティ・スクール」と「地域学校協働活動」の一体的な推進、地域における家庭教育支援の推進、様々な体験活動の推進等、学校・家庭・地域が連携した取組を支援。

【参考】2018年調査の国際比較(3分野の結果一覧)

	読解力	平均 得点	数学的リテラシー	平均 得点	科学的リテラシー	平均 得点
1	北京・上海・江蘇・浙江	555	北京・上海・江蘇・浙江	591	北京・上海・江蘇・浙江	590
2	シンガポール	549	シンガポール	569	シンガポール	551
3	マカオ	525	マカオ	558	マカオ	544
4	香港	524	香港	551	エストニア	530
5	エストニア	523	台湾	531	日本	529
6	カナダ	520	日本	527	フィンランド	522
7	フィンランド	520	韓国	526	韓国	519
8	アイルランド	518	エストニア	523	カナダ	518
9	韓国	514	オランダ	519	香港	517
10	ポーランド	512	ポーランド	516	台湾	516
11	スウェーデン	506	スイス	515	ポーランド	511
12	ニュージーランド	506	カナダ	512	ニュージーランド	508
13	アメリカ	505	デンマーク	509	スロベニア	507
14	イギリス	504	スロベニア	509	イギリス	505
15	日本	504	ベルギー	508	オランダ	503
16	オーストラリア	503	フィンランド	507	ドイツ	503
17	台湾	503	スウェーデン	502	オーストラリア	503
18	デンマーク	501	イギリス	502	アメリカ	502
19	ノルウェー	499	ノルウェー	501	スウェーデン	499
20	ドイツ	498	ドイツ	500	ベルギー	499
21	スロベニア	495	アイルランド	500	チェコ	497
22	ベルギー	493	チェコ	499	アイルランド	496
23	フランス	493	オーストリア	499	スイス	495
24	ポルトガル	492	ラトビア	496	フランス	493
25	チェコ	490	フランス	495	デンマーク	493
26	オランダ	485	アイスランド	495	ポルトガル	492
27	オーストリア	484	ニュージーランド	494	ノルウェー	490
28	スイス	484	ポルトガル	492	オーストリア	490
29	クロアチア	479	オーストラリア	491	ラトビア	487
30	ラトビア	479	ロシア	488	スペイン	483
31	ロシア	479	イタリア	487	リトアニア	482
32	イタリア	476	スロバキア	486	ハンガリー	481
33	ハンガリー	476	ルクセンブルク	483	ロシア	478
34	リトアニア	476	スペイン	481	ルクセンブルク	477
35	アイスランド	474	リトアニア	481	アイスランド	475
36	ベラルーシ	474	ハンガリー	481	クロアチア	472
37	イスラエル	470	アメリカ	478	ベラルーシ	471
38	ルクセンブルク	470	ベラルーシ	472	ウクライナ※	469
39	ウクライナ※	466	マルタ	472	トルコ	468
40	トルコ	466	クロアチア	464	イタリア	468
41	スロバキア	458	イスラエル	463	スロバキア	464
42	ギリシャ	457	トルコ	454	イスラエル	462
43	チリ	452	ウクライナ※	453	マルタ	457
44	マルタ	448	ギリシャ	451	ギリシャ	452
45	セルビア	439	キプロス	451	チリ	444
46	アラブ首長国連邦	432	セルビア	448	セルビア	440
47	ルーマニア※	428	マレーシア	440	キプロス	439
48	ウルグアイ	427	アルバニア	437	マレーシア	438
49	コスタリカ	426	ブルガリア	436	アラブ首長国連邦	434
50	キプロス	424	アラブ首長国連邦	435	ブルネイ	431
51	モルドバ※	424	ブルネイ	430	ヨルダン※	429
52	モンテネグロ	421	ルーマニア※	430	モルドバ※	428
53	メキシコ	420	モンテネグロ	430	タイ	426
54	ブルガリア	420	カザフスタン	423	ウルグアイ	426
55	ヨルダン※	419	モルドバ※	421	ルーマニア※	426
56	マレーシア	415	バクー(アゼルバイジャン)	420	ブルガリア	424
57	ブラジル	413	タイ	419	メキシコ	419
58	コロンビア	412	ウルグアイ	418	カタール	419
59	ブルネイ	408	チリ	417	アルバニア	417
60	カタール	407	カタール	414	コスタリカ	416
61	アルバニア	405	メキシコ	409	モンテネグロ	415
62	ボスニア・ヘルツェゴビナ	403	ボスニア・ヘルツェゴビナ	406	コロンビア	413
63	アルゼンチン※	402	コスタリカ	402	北マケドニア※	413
64	ペルー	401	ペルー	400	ペルー	404
65	サウジアラビア※	399	ヨルダン※	400	アルゼンチン※	404
66	タイ	393	ジョージア	398	ブラジル	404
67	北マケドニア※	393	北マケドニア※	394	ボスニア・ヘルツェゴビナ	398
68	バクー(アゼルバイジャン)	389	レバノン※	393	バクー(アゼルバイジャン)	398
69	カザフスタン	387	コロンビア	391	カザフスタン	397
70	ジョージア	380	ブラジル	384	インドネシア	396
71	パナマ	377	アルゼンチン※	379	サウジアラビア※	386
72	インドネシア	371	インドネシア	379	レバノン※	384
73	モロッコ	359	サウジアラビア※	373	ジョージア	383
74	レバノン※	353	モロッコ	368	モロッコ	377
75	コンボ	353	コンボ	366	コンボ	365
76	ドミニカ共和国	342	パナマ	353	パナマ	365
77	フィリピン	340	フィリピン	353	フィリピン	357
78			ドミニカ共和国	325	ドミニカ共和国	336
	OECD平均	487	OECD平均	489	OECD平均	489
	信頼区間(日本): 499-509		信頼区間(日本): 522-532		信頼区間(日本): 524-534	

(注)※は、コンピュータ使用型調査の実施ではなく、筆記型調査で実施した国を示す。また、国際基準を満たさなかったベトナム・スペイン(読解力のみ)は除く。

国名	OECD加盟国
国名	非OECD加盟国
平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に高い国・地域
平均得点	OECD平均よりも統計的に有意でない国・地域
平均得点	OECD平均よりも統計的に有意に低い国・地域

調査概要

- 義務教育修了段階の15歳の生徒が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを測ることを目的とした調査。
- 読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、3年ごとに調査実施。各回で3分野のうちの1分野を順番に中心分野として重点的に調査。
- 同じ調査問題を長期間使用することで得点の経年変化を見るため、問題は非公開(中心分野の一部のみ公開)。
- 各分野の問題の組合せが異なる複数の問題フォーム(2018年調査は36種類)を使用。各生徒はそのうち1種類の問題フォームに2時間で解答。
- 2015年調査より、筆記型調査からコンピュータ使用型調査に移行。
- 調査結果の示し方: 中心分野として実施した最初の年(読解力は2000年、数学的リテラシーは2003年、科学的リテラシーは2006年)のOECD加盟国平均得点を基準値(500点)とし、異なる実施年の結果が比較できるよう調整し、各国・各年の平均得点を算出。なお、平均得点を比較する場合は、数値の差を見るだけでなく、統計的に意味のある差(有意差)の有無の確認が重要。

2018年調査

- ◆中心分野は、読解力。読解力の習熟度の測定の精度を高めるために、生徒の解答状況により自動的に難易度の異なる出題をする「多段階適応型テスト」と「読みの流暢性」を把握する問題を導入。
- ◆79か国・地域から約60万人が参加。我が国では、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生のうち、国際的な規定に基づき抽出された183校、約6100人が調査に参加(2018年6月から8月に実施)。

主要分野の定義

◆読解力

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

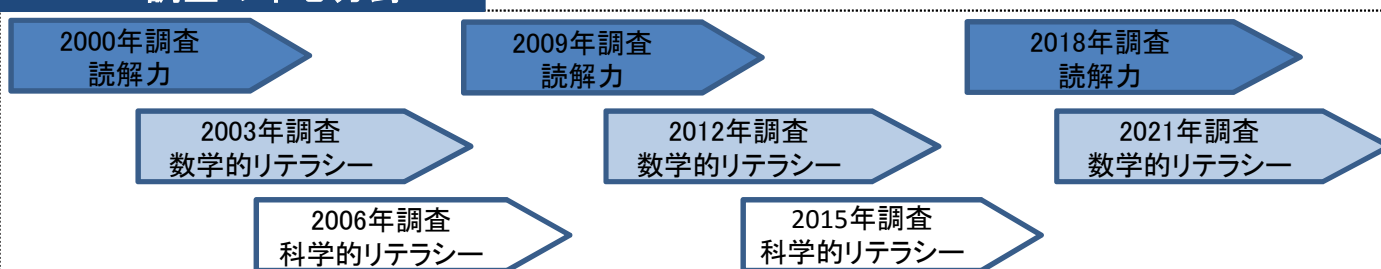
◆数学的リテラシー

様々な文脈の中で数学的に定式化し、数学を活用し、解釈する個人の能力。それには、数学的に推論することや、数学的な概念・手順・事実・ツールを使って事象を記述し、説明し、予測することを含む。この能力は、個人が現実世界において数学が果たす役割を認識したり、十分な根拠に基づいて建設的で積極的、思慮深く判断・意思決定したりする助けとなるもの。

◆科学的リテラシー

科学的な考えを持ち、科学に関連する諸問題に関与する能力として、「現象を科学的に説明すること」、「科学的探究を評価して計画すること」、「データと証拠を科学的に解釈すること」。

PISA調査の中心分野



PISA調査に関する情報

- ☞ 国立教育政策研究所編『生きるための知識と技能①～③』(ぎょうせい), 『生きるための知識と技能4～7』(明石書店)
- ☞ Webページ
 - ・国立教育政策研究所 (<http://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/>)
 - ・OECD (<http://www.oecd.org/pisa/>)